

1-2. 新中学校整備の計画条件

新中学校建設適地選定の検討結果を踏まえ、計画地を旧角田女子高等学校とし、前段に示した整備方針と合わせて、計画条件を以下のとおりとします。

表 1-2-1 新中学校施設の基本的な計画条件

	条件	備考
①計画地及び面積	◆旧角田女子高等学校 ◆39,966 m² ◆敷地の大半が 0.5m～3.0mの浸水区域となっているため、万が一の浸水を想定し、主要な教室や防災備蓄倉庫等を 2 階以上に配置	
②生徒数・学級数	◆生徒数（令和 13 年度生徒数） ・一般生徒：418 人 ・特別支援学級：25 人 ◆学級編制：最大 35 人 ◆普通教室：14 学級 ・1 学年：4 学級 ・2 学年：5 学級 ・3 学年：5 学級 ◆特別支援教室：6 学級	
③開校時期	◆令和 13 年度以降	
④検討する施設	◆校舎：RC造又は、S 造 3 階建てを想定 ◆屋内運動施設 ・体育館：バスケットボールコート 2 面、ステージ、器具庫、更衣室、トイレ等 ・柔剣道場：柔道場 1 面、剣道場 1 面、器具庫 ◆屋外運動場 ・直線 100m、200mトラック以上 ・サッカーコート 1 面 ・野球場 1 面 ・テニスコート 4 面 ◆屋外トイレ ◆屋外倉庫 ◆駐車場 ・一般用、職員用、スクールバス用 ◆外構・緑地	基本設計時等において変更の可能性あり

追記：
、W造又はそれらを組み合わせた複合工法

1-3. 導入機能・必要諸室の検討

上記、基本方針及び計画条件を踏まえ、新たな学校に導入する機能等を検討し、基本方針の具体策との関連性を整理します。

(1) 新中学校の施設概要

表 1-3-1 新中学校の施設概要

施設等	内容				
生徒数、普通教室 学級数 (令和13年度)	・令和13年度の通常学級の生徒数は418人、1学級最大35人編制とし、普通教室及び学級数は1学年4学級、2・3学年、各5学級、計14学級とします。				
		1学年	2学年	3学年	計
	通常学級生徒数	126人	142人	150人	418人
	学級数	4学級	5学級	5学級	14学級
校舎基準プラン	・現時点においては、校舎は、鉄筋コンクリート造又は鉄骨造、地上3階建てを想定し、洪水等の災害への備えとして主要な教室や防災備蓄倉庫等は2階以上に配置します。 追記：木造又はそれらを組み合わせた複合工法 ・普通教室は、1学級最大35人編制とし、教室面積は72㎡(8m×9m=72㎡)を基本プランとします。				
校舎に配置する教室等	・普通教室 ・理科室 ・音楽室 ・美術室 ・技術室 ・家庭科室（調理室） ・図書室 ・その他学習関係諸室（生徒会室、カウンセリング室、別室登校向け教育相談室、進路指導室等） ・管理関係諸室（職員室、保健室、放送室、会議室、事務室等） ・交流施設（多目的ホール、地域活動室・ボランティア室） ・その他（昇降口、トイレ、配膳室、防災備蓄倉庫等） ・多目的教室 ・理科準備室 ・音楽準備室 ・美術準備室 ・技術準備室 ・家庭科室（被服室） ・特別支援教室 ・家庭科準備室				
屋内運動施設	・体育館（バスケットボールコート2面、ステージ、トイレ、更衣室、器具庫等） ・柔剣道場（柔道場1面、剣道場1面、器具庫等）				
屋外施設	・グラウンド（200mトラック、野球場、サッカーコート等）				
	・テニスコート4面		・屋外倉庫		
	・屋外トイレ		・駐輪場（250㎡程度）		
	・駐車場（一般用：40台以上、職員用：50台以上、スクールバス用：6台以上）				
	・その他（緑地、歩道、車アクセス路、管理用道路等）				

※：普通教室の基本プランについて

これまでの校舎や教室規模の基準としては、学校施設を全国一定レベルに整備できるよう、昭和 25 年に文部省（現文部科学省）が日本建築学会に委嘱して作成した「鉄筋コンクリート造の標準設計」があげられます。この標準設計のなかでは、当面する教育の量的拡大に対応するために、片廊下形式の校舎や教室面積 63 ㎡（奥行き 7m×間口 9m）のプランが標準設計として示されており、この標準設計を基に全国の校舎が整備されていった経緯があります。

現在の普通教室の平均面積は 64 ㎡（「少人数によるきめ細かな指導体制の計画的な整備の検討について」（2020 年 10 月 21 日 文部科学省初等中等教育局））で、65 ㎡未満の教室が全体の約 70%を占めており、現時点、当該標準設計に基づく教室規模の学校が多いことがうかがえます。

今後の教育環境においては、1 学級最大 35 人編制に移行されるとともに、大型モニターなどの ICT 関係の機材等の設置スペースの確保、1 人 1 台端末に対応した新 J I S 規格の機の導入、多様な学習形態への対応や感染症発生時の対策なども求められています。

上記を踏まえ、本計画においては、現在よりもゆとりをもった教室として 72 ㎡（8m×9m＝72 ㎡）を基本プランとします。

（２）部活動のための施設整備方針

生徒等の自主的・自発的な参加により行われる部活動が十分に行えるように、以下に示す方針に基づき施設整備を行います。

- ◆現在、角田中学校及び北角田中学校で行われている既存の部活動の活動状況のほか、近年進められている部活動の地域移行や再編状況等を踏まえ、部活動に必要な施設等を整備していきます。
- ◆生徒が自主的・自発的に参加できるよう部活に関する生徒の要望等を把握するとともに、その要望等を踏まえ、各部活動において必要とされるコートや教室等のスペースを確保していきます。
- ◆運動部においては、可能な限り、他の運動部との重複利用がないよう配慮するとともに、文化部においては特別教室等の活用を検討していきます。

追記：

- ◆近年の夏場の暑さによる生徒の安全性を考慮し、新中学校にはプールを整備せず、既存の屋内温水プールを活用します。

(3) 校舎等の屋内施設の検討

① 学習関係諸室

導入機能等	導入機能等の考え方	関連する 主な具体策
普通教室	◆現在「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」を改正し、中学校の学級編制が、令和 8 年度（第 1 学年）から令和 10 年度（第 3 学年）にかけて、段階的に 35 人以下となる見通しであることを踏まえ、学級編制は最大 35 人とします。 ◆各学年の通常クラス数は、令和 13 年度以降の供用開始を目指し、その時点で必要となるクラス数を確保することとします。 【令和 13 年度時点】 第 1 学年：4 クラス（126 人） 第 2 学年：5 クラス（142 人） 第 3 学年：5 クラス（150 人） 計：14 クラス（418 人） ◆将来的にクラス数が減少した場合等には、多目的教室として利用するなど、柔軟な活用を検討していくこととします。	(1) (2)

〔 現在と将来の生徒数 〕

(単位：人)

		年度													
		R7		R8		R9		R10		R11		R12		R13	
		通常	特支	通常	特支	通常	特支	通常	特支	通常	特支	通常	特支	通常	特支
1 学年	角田中学校	113	8	129	6	122	5	115	9	104	6 7	93	2	96	5
	北角田中学校	56	4	39	5	42	5	37	5	46	3 2	49	6	30	3
2 学年	角田中学校	160	3	115	5	129	6	122	5	115	9	104	6 7	93	2
	北角田中学校	52	1	56	5	39	5	42	5	37	5	46	3 2	49	6
3 学年	角田中学校	147	4	158	5	115	5	129	6	122	5	115	9	104	6
	北角田中学校	60	2	51	2	56	5	39	5	42	5	37	5	46	3
計		588	22	548	28	503	31	484	35	466	33	444	31	418	25
		610		576		534		519		499		475		443	

(単位：人)

		年度													
		R14		R15		R16		R17		R18		R19		R20	
		通常	特支	通常	特支	通常	特支	通常	特支	通常	特支	通常	特支	通常	特支
1 学年	角田中学校	83	8	77	4	70	3	62	3	57	2	56	2	50	2
	北角田中学校	39	1	40	2	43	2	42	2	29	2	25	2	26	2
2 学年	角田中学校	96	5	83	8	77	4	70	3	62	3	57	2	56	2
	北角田中学校	30	3	39	1	40	2	43	2	42	2	29	2	25	2
3 学年	角田中学校	93	2	96	5	83	8	77	4	70	3	62	3	57	2
	北角田中学校	49	6	30	3	39	1	40	2	43	2	42	2	29	2
計		390	25	365	23	352	20	334	16	303	14	271	13	237	12
		415		388		372		350		317		284		249	

※令和 7 年度は実績。令和 8 年度以降は、令和 8 年 5 月 1 日現在の児童生徒数及び出生数を用いた推計値。

令和 15 年度以降の特別支援学級在籍生徒数については、出現率（就学児童数の上限 5.0%で障害区分なし）を含む推計値。

導入機能等	導入機能等の考え方	関連する 主な具体策
防災備蓄倉庫	◆防災備蓄倉庫は、災害時に避難所となる多目的ホールや体育館等との位置関係に配慮した配置とするとともに、万が一の浸水被害等の可能性を考慮し、2階以上に設置します。	(3) (4)
階段・廊下等の 供用スペース等	◆階段・廊下は、明るく開放的で、生徒が使いやすい動線とするとともに、面積を広くとり、オープンスペース等として活用できるようにします。	(1) (2)

⑥ 設備等

追記：

◆有事の際の避難経路を確保します。

導入機能等	導入機能等の考え方	関連する 主な具体策
I C T環境	◆安定した通信ネットワーク環境等を構築し、校内全体で快適にI C Tが活用できるようにします。 ◆万が一の浸水被害等を想定し、サーバーは2階以上へ設置します。	(1) (3)
バリアフリー・ユニバーサルデザイン	◆段差解消、広い廊下、エレベーターや各階へのバリアフリートイレの設置など、校内全体でバリアフリー化を図るとともに、ユニバーサルデザインの考え方を踏まえた校内サイン等を導入します。	(2)
Z E B化	◆省エネ設備や太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入等により、施設のZ E B化を進めます。	(3)
非常用発電設備	◆災害時の避難所としての利用が想定されることから、非常用発電設備等を設置します。 ◆万が一の浸水被害等を想定し、非常用発電装置は2階以上へ設置します。	(3) (4)
防犯設備	◆不審者等の学校侵入を防止し、生徒の安全を確保するため、防犯カメラや車止め設置するほか、万が一のための、非常用通報装置等を設置します。	(3)
衛生設備	◆生徒等の衛生的で快適な環境を確保するため、トイレの洋式化やドライ化、非接触型の手洗い設備などを導入します。	(2)
空調設備	◆熱中症などの健康リスクを軽減するため、普通教室・特別教室・屋内運動施設（体育館・柔剣道場）等においても、空調設備を導入します。	(2) (3) (4)

(4) 屋外施設の検討

導入機能	導入機能の考え方	関連する 主な具体策
グラウンド	◆グラウンドは、直線100m、200mトラック、サッカーコートや野球場等が配置できる規模を確保します。	(2)
テニスコート	◆テニスコートは、現在の角田中の利用状況等を踏まえ、4面を確保します。	(2)

3) 南側配置案

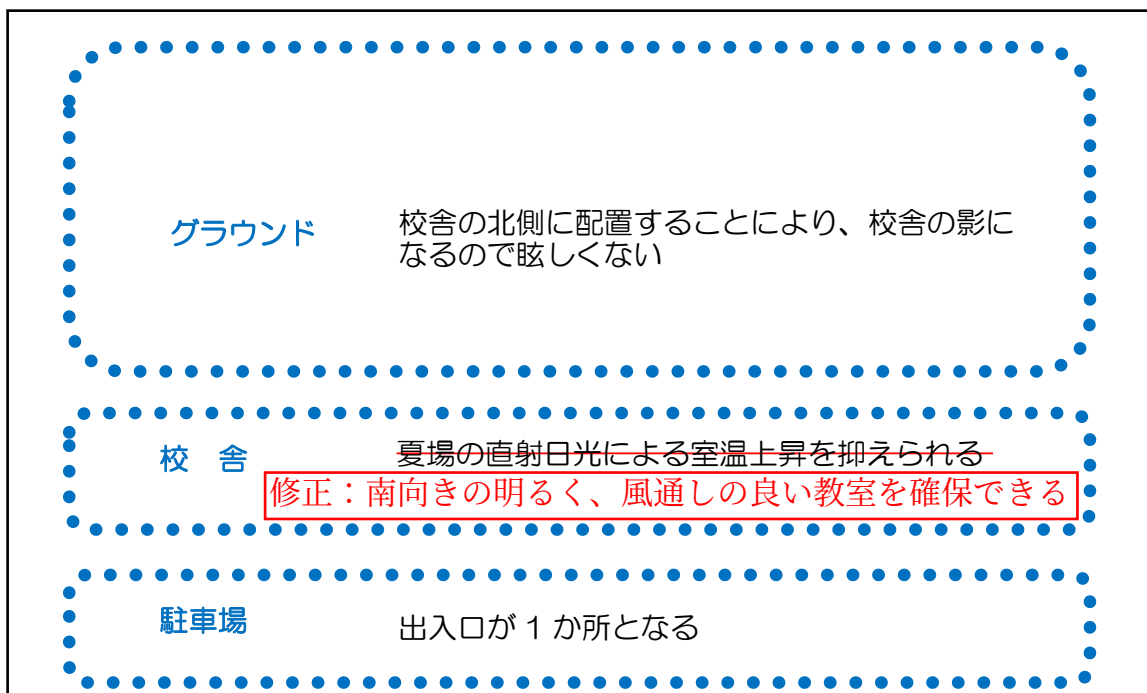
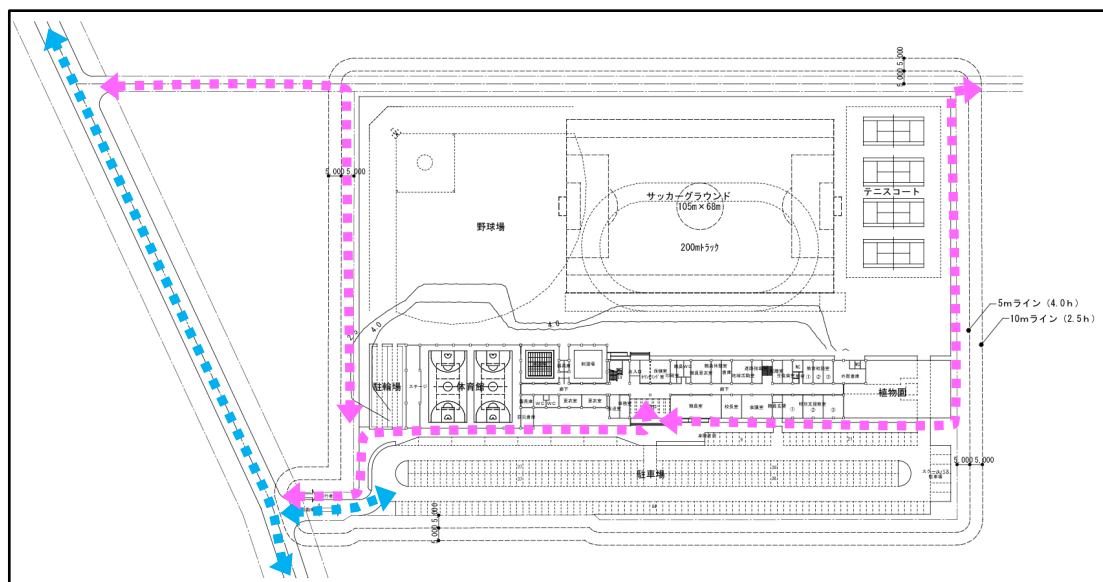


図 1-9-5 南側配置ゾーニング図



←.....→ 車両動線
 ←.....→ 人動線

図 1-9-6 南側配置案

(2) 校舎配置位置比較表

表 1-9-1 校舎配置位置比較表

配置案	西側配置案	北側配置案	南側配置案
概略図			
校舎位置	西側	北側	南側
校舎・体育館配置	鍵型配置	直線配置	直線配置
校舎日陰規制	北東方向に区域外への影響あり	北西方向に区域外への影響あり	北西方向に区域外への影響あり
グラウンド位置	校舎棟正面	校舎棟正面	校舎棟正面
トラック長軸方向	北東から南西方向	北西から南東方向	北西から南東方向
野球場方向(ホームベース)	東方向	西方向	西方向
テニスコート長軸方向	北東から南西方向	北西から南東方向	北西から南東方向
サッカーグラウンド長軸方向	北東から南西方向	北西から南東方向	北西から南東方向
スクールバス出入口	北側接道	北側接道	県道 113 号
自転車出入口(主)	県道 113 号	北側接道	県道 113 号
駐車台数(小型・最大)	167 台	224 台	264 台
メリット	・教室は、午前中の採光が良く、朝から明るい。 ・グラウンドは冬場でも陰にならない。 ・人と車の動線を分離することができる。 ・校舎までの人の動線が短くなる。	・南向きの明るく、風通しの良い教室を確保できる。 ・グラウンドは日当たりが良く、冬でも乾きやすく活動しやすい。 ・駐車場は北側接道の近接地とすることで、出入口を 2 か所設けられる。	~~・教室は、夏場の直射日光による室温上昇を抑えられる。~~ ・グラウンドは、校舎の影になるので眩しくない。 ・北側の隣地に対する日影の影響がない。
デメリット	・西側の教室が午後に猛烈に暑くなる。 ・グラウンドは西日が眩しい。 ・西風が強い場合は砂埃が校舎に直接吹き付ける恐れがある。	・教室は、夏場の直射日光による黒板の反射や、室温上昇の恐れがある。 ・北側の隣地に対する日影の影響が大きく、配慮が必要である。 ・冬季間は校舎北側の駐車場が凍結しやすく、暗い。 ・人と車の動線が交差することになり、危険である。 ・校舎までの人の動線が長くなる。	~~・冬場に日が当たらず、教室が非常に寒くなりやすいので、照明利用時間と暖房費が増大する。~~ ・グラウンドは、校舎の影で地面が凍結・泥濘化しやすい。 ・駐車場の出入り口が 1 か所となる。 ・人と車の動線が交差することになり、危険である。 ・校舎までの人の動線が長くなる。

修正：
・南向きの明るく、風通しの良い教室を確保できる。

修正：
・教室は、夏場の直射日光による黒板の反射や、室温上昇の恐れがある。